



佐賀県  
子育て応援キャラクター  
さがっぴい



## ひろがる「幼保小連携・接続」の取り組み！

県内では幼保小連携・接続の取り組みが広がっています。  
今回は、こどもの実態や地域の特色を生かし、自治体、園、小学校が協力して  
創意工夫しながら取り組んでいらっしゃる大変参考になる取り組みを紹介します。

### 《有田町》こどもの姿、お互いの教育の良さを深く理解し共有！

有田町幼保小協議会作業部会の様子《令和8年2月》



国語の授業を動画視聴、生活科や  
図画工作の学習について小学校の  
先生が丁寧に説明

保育参観後の協議会の様子《令和7年8月》



保育者から「あぁしなさい。こうしなさい。」  
というような指示的な言葉や禁止の言葉  
が聞かれなかったことに感心した。

- 有田町幼保小協議会は、年間4回の協議会を計画。今年は、有田小学校での授業公開、くわこば保育園での公開保育などを通し、地域の実態や子どもの様子などを共有することを柱にして実施されました。
- 本協議会は、「有田の子どもたちを同じまなざしで見っていく」「お互いがどのような学びを展開しているのかを理解すること」を大事にされています。そして、実質的な話し合いや実践を重視し、具体的な取組を関係者で共有することにまずは重点を置いていらっしゃいます。
- 事務局の有田小学校 山口英一校長先生から「幼保小の連携・接続は、スタートしたばかりです。園と小学校の先生方の顔が分かって話ができるようになったことが何よりの収穫です」というお言葉があり、人とのつながりを大切にすることがカリキュラム作成の基盤となるお考えがとても参考になりました。

有田町4校の小学校では焼きものづくり体験をしている。幼児期の陶土を使った遊びの経験を踏まえることで、有田ならではの学びのつながりをつくり出すことができる。

### 《多久市》“言葉による伝え合い”を楽しむようになるための「学びの接続」！

多久市幼保小連絡協議会の様子《令和7年8月》



卒園児の小学校での様子が気になっていましたが、元気に学校で  
過ごしていることを聞いて安心  
しました。

- 多久市は、幼保小連絡協議会、園児と児童の学習交流会、小学校教員の保育体験など長年取り組まれており、幼保小連携が園、小学校に根付いています。
- 20数年前に作成された「多久っ子プログラム」「はぐくみステップ」は、現在も改定等を行いながら各学校、園で活用されています。これらは乳幼児期から小学校までの教育をつなぐ具体的な内容となっています。
- 市教育委員会、市福祉部局の主催で園と小学校の先生で「言葉による伝え合い」を楽しむようになるための学びの接続、「相互に学びのある活動を意識した幼児・児童の交流活動」を柱に和気あいあいとした雰囲気の中、協議会が進められました。

“言葉による伝え合い”が活発に行われるようゲームや発表を取り  
入れて子どもたちが主体的に活動できるように計画しましょう！



## 《基山町》 架け橋期の教育の充実に向けた新たなスタートに！

先生方の協議の様子《令和7年10月》



- 基山町こども課、教育委員会の声掛けで町内の園、小学校の管理職、5歳児担当、小1の担任などが一堂に会して協議会が開催されました。
- 前段は各園、小学校の取組報告、「子どもの育ちをつなぐ 幼保小架け橋プログラムの必要性と展望」をテーマに研修し、後半は基山小、若基小の校區別に分かれ、それぞれのこどもの様子や育ちについてじっくり語り合われました。
- 園と小学校がもっと気楽に話し合えるような状況をつくるために、幼保小連携の窓口になる先生を明確にするなどの具体的な方策が話し合われました。また、小学校以降の探究的な活動につながる保育についても話題となりました。
- こども課 山本賢子課長が「今日の話し合いをきっかけに新たなスタートとして園と小学校の連携・接続を深めていきたい」と笑顔で語られたのが印象的でした。

園から、「いろんな虫がたくさんいて、植物なども豊富な環境です。例えば、アゲハチョウになるまで幼虫から育て、羽化したときは、その様子を大喜びで友だちとお話していました。また、よもぎを摘んだりどんぐり拾いをしたりして季節を感じています」と小学校の学びにつながる子どもが自ら探求していく芽生えが感じられるお話がありました。

## 《鹿島市》 継続的な情報交換・参観・交流を通じて子どもの成長を支援！

鹿島市幼保小連絡協議会の様子  
《令和7年11月》



- 鹿島市では、市教育委員会、福祉課、幼保小連携部会の緊密な連携により「架け橋プログラム」の促進を図られています。本協議会は、「架け橋プログラムとは何？」というところから研修を深められ、そのことを基に小学校區別で話し合いが進められました。
- 6つにグルーピングされた話し合いは、「今後進めていきたい幼保小連携の取り組み」「次年度入学してくる子どもたちの様子」などを中心に和気あいあいとした雰囲気でも熱心に語り合われました。
- 鹿島市幼保小連携連絡協議会会長の西川ひとみ校長先生から「幼保小の先生方がお互いの教育や指導について深く理解し、連携を深めることは、保護者の安心感につながり、ひいては子どもたちの小学校入学への期待感を大きくし、不安を減らすこととなります」とのご挨拶があり、協議会でも、こどもに関わる大人が立場の違いを越えて連携・協働することの大切さが話題となりました。

入学した当初は学校探検などの楽しい活動があり学校に早く慣れることができるようにしています。安心してください。

小学校での給食の様子を参観してみたいです。

コロナ禍で中断されていた園児と児童の交流や先生たちの相互参観が復活できたらいいですね。



次号も県内で取り組まれている架け橋プログラムの好事例について紹介させていただきます



**幼保小連携・接続や架け橋期のカリキュラム作成について  
基礎的なことから分かりやすくコーディネーターがお伝えします**

《まずは佐賀県保育幼児教育センターへお電話などで気軽にご相談ください》

佐賀県保育幼児教育センター（佐賀県 こども未来課）

☎ 0952-25-7616    ✉ [hy-c@pref.saga.lg.jp](mailto:hy-c@pref.saga.lg.jp)    様式等は [こちらから](#) ➔

